

発寒ひかり  
保育園だより

2019年  
8月号

巻頭言

イスラエルに、一夜にして有名人になった92歳のおばあちゃんがいるそうです。今年5/8夜、イスラエルの独立記念日でスピーチをする一人に選ばれた、マリー・ナハミアスさんです。

マリーさんの四男は、1973年の第4次中東戦争で重傷を負い、生死の境をさまよいました。マリーさんは、「神様。もし息子が助かれば、私は人々のために何でもやります」と祈り、息子は一命を取り留めました。

翌年、育ての親を探している病気の赤ちゃんを、「神様のおぼしめし」と引き取りました。それ以来、病院に置き去りにされた障がい児や、親の虐待を受けた子など53人を、里親として育ててきました。植物状態のアラブ人の赤ちゃんを、周囲の視線も気にかげず、最期まで看病しました。

式典主催者の原稿を断わり、当日、マリーさんの手に原稿はありません。愛国的なスピーチが続く中（パレスチナでは今なお戦闘が続いています）、マリーさんの番に。マリーさんは、天を見上げました。

「もう戦争で、一人の兵士も亡くなることはありませんように」  
「ユダヤ人、アラブ人、キリスト教徒、（アラブ系）ドルーズ派。私たちは一つになるのです。神よ、平和をもたらしして」

異例のスピーチでした。聴衆が次々と立ち上がり、喝采を送ります。その雰囲気を押され、普段はアラブ人を敵視するネタニヤフ首相までもが立って拍手を送りました。

6月の沖縄慰霊の日に続き、8月は、広島・長崎の原爆、そして終戦の記念日があります。子どもたちの平和な未来のために、祈り、力を合わせて参りましょう。

園長 吉田 行男